

哲学

担当教員： 宮本真也

履修年次・区分： 1～4年（共通—教養—人間と文化）

授業のテーマ： 哲学的な思考は現状への批判を含む。しかし、その批判の基準や方法は必ずしも定かではない。時代や文化によっても異なる。また批判は時として現状擁護の議論にも転換しやすい。本講義ではそうした問題性を、古代ギリシアにおける哲学の発生、中世進歩における哲学の役割、近代初頭における「人間の発見」、啓蒙主義における現状批判と宗教批判の結びつき、日本の近代における哲学と人性論の結合の意味、天皇制と哲学のあり方などに絞って考えていく。

この日の授業内容： 社会的承認とコミュニケーション



例えばLINEでの既読無視や、あいさつを無視されるというように、相手が反応してくれるという期待を傷つけられ、まるで見えないようにふるまわれることがあります。これを社会的承認の欠如といいます。承認の欠如が怒りや苦しみに発展したり、社会的摩擦や集団間のトラブルを引き起こすこともあります。

「承認論」を体系づけたのはフランクフルト学派の社会哲学者、アクセル・ホネット(1949～)です。「承認」とは、振る舞い、態度、行為、行動のこと、つまり「出来事」としてとらえます。

(2016年8月取材)